

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	中山間地域組織小委員会		主 査 名：斎尾直子 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	農村計画委員会		委員長名：三橋伸夫
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2010 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>農村計画分野の緊急課題のひとつに中山間地域問題がある。少子・高齢化および過疎化が進行する中山間の農山村地域は、地域再生産機能を失いつつある一方で、NPO をはじめとする新たな組織的資源の活用、創成というソフト分野から中山間地域の再構築の方途を探る動きも数多くでてきている。本小委員会は、このような組織による地域経営・構築環境のあり方を展望し、農山村地域における NPO 参画にもとづく地域経営計画論の提示を目標に活動をおこなってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会時の PD、公開研究会、企画と実施 ・新潟県長岡市小国町 NPO 法人 MTN サポートとの共同研究 		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>主査：斎尾直子 (筑波大学)，幹事：栗原伸治 (日本大学)，三橋伸夫 (宇都宮大学，農村計画委員長，2006-2007 年度主査)，金俊豪 (宇都宮大学)，齋藤雪彦 (千葉大学)，鎌田元弘 (千葉工業大学)，前田真子 (広島工業大学)，山下仁 (農村工学研究所)，大和田清隆 (都市防災研究所)，田代久美 (宮城大学)，山口忠志 (ミカミ)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2009 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	計 3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 公開研究会「農山村地域における『新たな結(ゆい)』の機能と役割をさぐる」 2009.5.23 参加者数 17 名</p> <p>2. 公開研究会「中山間地域における地域組織形成のゆくえ -市町村合併後の小さな村役場づくり-」 2010.2.6 参加者数 17 名</p>
大会研究集会	<p>1. PD：農山村地域と大学の共創まちづくり・むらづくり -来訪者をつくる連携のカタチ- (都市計画委員会と共同開催) 参加者数 64 名 『農村計画部門+都市計画部門パネルディスカッション資料：同上』</p>
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 2009 年度大会時の PD を本小委員会が幹事となり企画・実施をおこなった。この際、地域運営や組織等、フィールドやアプローチは異なるが共通のテーマを持つ都市計画委員会の小委員会と連携・共催を実現することができた。</p> <p>2. 本年度は、公開研究会を 2 回、企画・開催し、中山間地域組織の現場で活躍されている方、地域運営支援側の行政側 (国交省等) の講演者を迎え、参加した多くの農村計画研究者を含め、議論する場を設けることができた。</p> <p>3. 中山間地域組織の全国各地の事例を収集するとともに、特に、長岡市小国町 NPO 法人 MTN サポートより「新しいコミュニティ(小さな役場)による地域経営調査に関する業務」委託を受け活動し、報告書を作成した。 調査報告書 ・平成 21 年度『新しいコミュニティ (小さな役場) による地域経営調査』</p>

**委員会活動の問題点
・課題**

1. 設置期間を終え発展的解消、2010年度からは「農山村地域組織形成小委員会」として再スタートすることとなり、これまでの東日本に偏っていた委員構成が解消され、全国レベルの議論に発展できることが期待される。
2. 公開研究会は、今後とも随時おこなっていきたいと志向しているが、その前後に小委員会を開催しても旅費手続きができないことは、非常に活動をしにくくしています。大学本業務等の予定をぬって全国各地の委員が何度も予定を合わせて集まることは困難であり、この制度は改良していただくことをのぞみます。